

- オーバーツーリズムの持続可能かつ自走可能な解決手段としては、入域制限により旅行者をコントロールしたうえで、旅行者から収受する料金で必要コストをまかなうことが有効な手段となり得る。しかし、そのような取組は全国的にも数少ないうえに、展望台等の狭いエリアにおいて、短い期間に限定した入域制限による成功モデルはまだ確立されていない。
- 本事業では、一定期間(冬期)だけで問題が生じている観光スポットにおいて、**「有料イベントの開催」という手法**により、**「旅行者による費用負担」のもと「時限的な入域制限(管理)」**を行い課題解決を図るモデルの構築を目指した。
- さらに、通常立入できないエリアでの体験アクティビティという**「特別な体験」**と組み合わせることで、観光の高付加価値化による域内消費の拡大にも寄与する事業モデルの構築を目指した。

1. 地域課題

- 小樽市にある「祝津パノラマ展望台」は観光客に人気の眺望スポットだが、急坂で道幅の狭い道路の先に位置し、旅行者が多く訪れる冬の一部期間では、道路上に歩行者と車が混在・錯綜する状態。
- 冬期は路面凍結により旅行者の転倒や車のスリップが頻発するため、特に外国人旅行者が増える春節期に向けて、重大事故の未然防止措置が必要。
- 一般市民も利用する道路であるため市道封鎖は極めて困難。また、展望台の封鎖・立入禁止は貴重な観光資源の喪失となり、観光振興の観点から望ましくない。
- 展望台を訪れた旅行者による域内消費を生み出す仕組み構築の検証が必要。



2. 課題解決の方向性

◆ 対策の方向性

●最も危険な状態である、徒歩で向かう旅行者と車が混在・錯綜する状態を解消する。

⇒車道を徒歩で展望台まで向かう旅行者が実質ゼロとなる仕組みを構築する。

●来年度以降、行政予算ゼロで自走できる持続可能(自走可能)な仕組みを構築する。

⇒コストを極力抑えるとともに、旅行者から料金を徴収する仕組みを構築し、当該料金で必要コストをまかなう。

◆ 本事業のポイント

- ・従来のオーバーツーリズム対策としては、①人員を配置し旅行者への注意喚起を実施、②観光ルールを記載した案内看板等の設置 が主な対策として挙げられる。
- ・本事業では、上記の従来手法とは異なり下記の3つのポイントを組み合わせた新たな試みを行った。

・**入域制限**： 展望台イベント開催の形をとり、旅行者と車が混在・錯綜するエリアの入域を制限
専用車両による展望台までの移動を提供することで、安全性を強化

・**旅行者負担**： 旅行者からイベント参加料を徴収

・**特別な体験**： 通常では入ることのできないエリアでのスノーシューガイドツアーを実施

➡「有料イベント開催」という手法で入域制限を行い、オーバーツーリズム対策と観光による地域への経済還元
を両立する課題解決手法の試みとして実施

3. 実証概要

◆ 展望台イベント

【開催日時】

2026年2月9日(月)	11:00～16:00
2月10日(火)～17日(火)	9:00～16:00
2月18日(水)	9:00～15:00

【参加料】

1人あたり1,000円 ※現金・キャッシュレスどちらも対応

【内容】

おたる水族館第一駐車場付近から展望台までの道路について、イベント開催のため徒歩・車両の入域制限を実施。

展望台来訪希望者は同駐車場にて参加受付を行い、ジャンボタクシーで展望台まで送迎。

展望台では、かまくら設置、温かい飲み物の配布、展望台の解説用紙配布を実施。

◆ スノーシューガイドツアー ※展望台イベントの一部として実施

【開催日時】

2026年2月11日(水)～17日(火) 1日3部制にて実施
①9:30～11:00 ②12:00～13:30 ③14:00～15:30

【参加料】

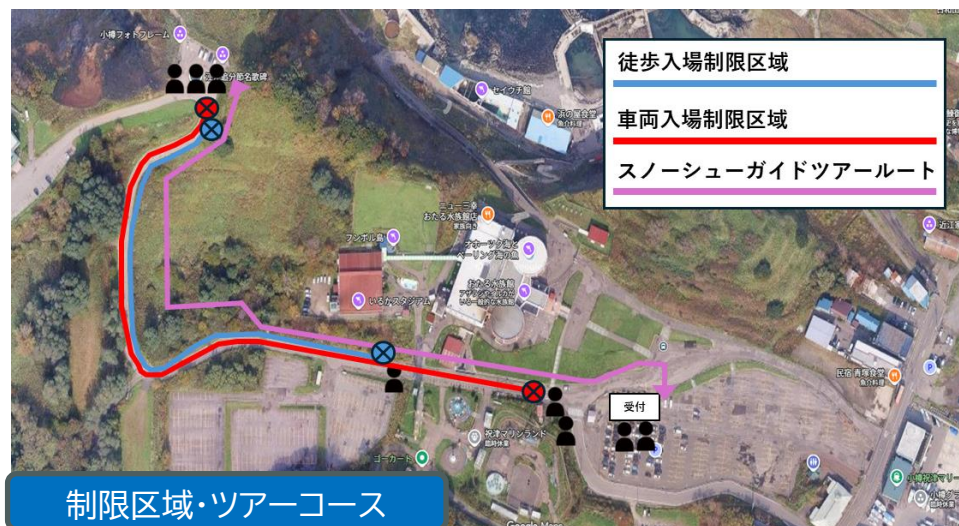
1人あたり5,000円(2月11日～2月13日)
3,000円(2月14日～2月16日)
1,000円(2月17日)

※現金・キャッシュレスどちらも対応
※参加希望者が少なかったため段階的な値下げ実施

【内容】

展望台イベントの一部期間において、スノーシューガイド2名を手配し、おたる水族館第一駐車場受付から展望台までのスノーシューガイドツアーを実施。

計7日間の開催期間・1日3部制の設定を行い、1部あたりの定員は10名にて実施。



4. 実証結果(展望台イベント)

◆参加者数

9日(月) 【雪】	10日(火) 【曇り】	11日(水) 【雪】	12日(木) 【雪】	13日(金) 【晴】	14日(土) 【晴】	15日(日) 【雨】	16日(月) 【曇り】	17日(火) 【晴】	18日(水) 【曇り】	合計	1日平均
46	68	60	60	76	111	43	56	91	77	688	68.8

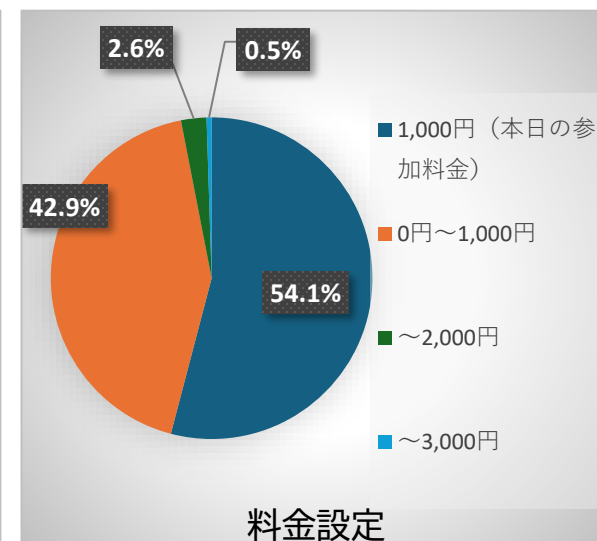
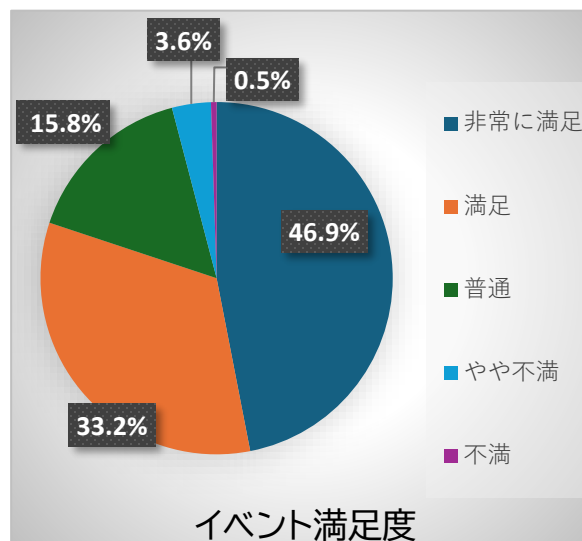
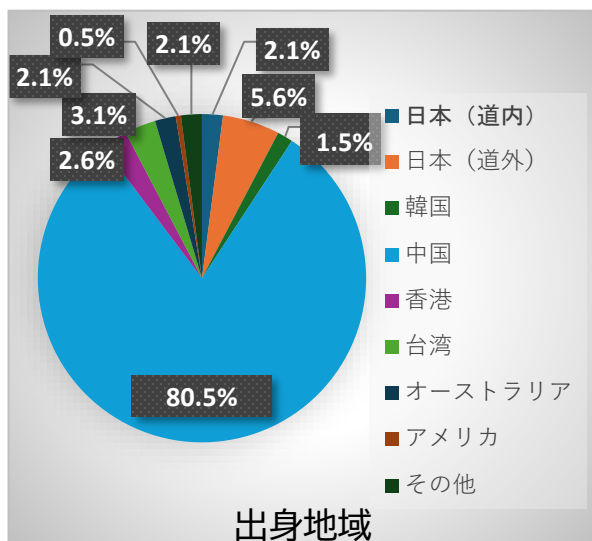
◆アンケート

●基本設計 【設問数】22問

【言語】日本語・英語・繁体字・簡体字・韓国語

【内容】展望台到着後、アンケート用紙配布。QR読み取り方式にてアンケート実施。(代表者のみ回答)

●アンケート結果(一部抜粋)



5. 実証結果(スノーシューガイドツアー)

◆参加者数

9日(月) 【雪】	10日(火) 【曇り】	11日(水) 【雪】	12日(木) 【雪】	13日(金) 【晴】	14日(土) 【晴】	15日(日) 【雨】	16日(月) 【曇り】	17日(火) 【晴】	18日(水) 【曇り】	合計	1日平均
		2	2	0	2	1	2	7		16	2.2

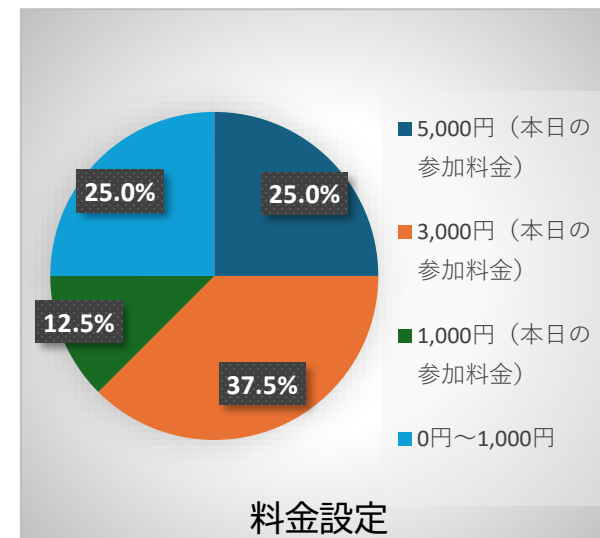
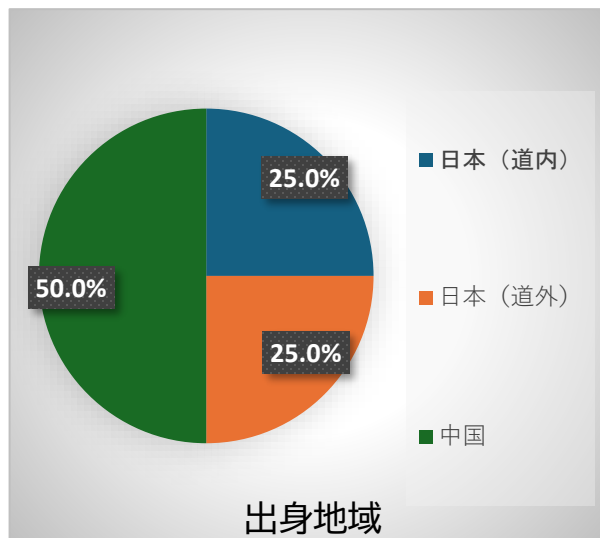
◆アンケート

●基本設計 【設問数】24問

【言語】日本語・英語・繁体字・簡体字・韓国語

【内容】ガイドツアー終了後、アンケート用紙配布。QR読み取り方式にてアンケート実施。(代表者のみ回答)

●アンケート結果(一部抜粋)



6. 実証総括

- ・参加者の出身地域は「中国」が80.5%と圧倒的多数を占め、基本的にインバウンド層が中心。
- ・イベントの満足度は「非常に満足」「満足」を合わせて約80%と概ね好評。特に印象に残った点としては「展望台からの景色」が88.8%と圧倒的な支持を集め、観光スポット本来の魅力が評価された。また安全面や混雑状況についても、ほぼすべての参加者が肯定的な評価をしており、イベント運営面での不満は少ない結果となった。
- ・適正料金について、現在の1,000円が適正とする回答が54.1%を占めた。
- ・イベントに対するクレームはほとんど発生しなかった。
- ・展望台を訪れる方は短時間滞在の層が多かったため、1時間を超えるスノーシューツアー体験については現地で参加希望する来訪者は少ない結果となった。
- ・1日あたりの事業収支：▲205,200円
⇒中国への依存度も高く直ちに自走化は難しいが、参加者や単価を増やす工夫や、オペレーションの最適化による人件費削減によって、黒字化が見込める

7. 事業総括(横展開にあたって)

- 従来のオーバーツーリズム対策とは異なるアプローチでの課題解決を検証した取組であったが、実証結果から以下のことが分かり、「有料イベント開催」という手法による課題解決の有効性が示された結果となった。

- ・景色を自由に見てもらうことが中心のごく簡易的なイベント内容であっても、観光スポット本来の魅力があればイベントとしての満足度も高くなった。
- ・ごく簡易的なイベントに1,000円という価格設定でも、インバウンド旅行者にとっては適正価格であった。
- ・入域制限を行っていることに対する市民・観光客からのクレームはほとんどなく、事前案内や現地での説明をしっかりと行えば地域理解を得られた。

- 他方、中国人に人気の観光スポットであり、国際情勢による中国人旅行者減(前年比▲57%)の影響を大きく受けたこと、天候の影響を受けやすい観光スポットであり悪天候・曇天の日も多かったことから、黒字化は出来なかった。
他地域での横展開にあたっては、黒字化させるためのオペレーション最適化、価格設定、高単価イベント内容との組み合わせを各スポットの状況に応じて検討したうえで、「有料イベント開催」による課題解決を目指すことが重要である。また、今後は、市民は無料又は割引などを行うことも地域理解を得るうえで有効と考えられる。加えて、体験アクティビティを実施する場合は、事前予約や希望した時間に受入れができるようにするのが効果的と考えられる。